

平成23年度 水道事業会計決算のあらまし

水道局では、税金に頼ることなく、みなさまからの水道料金を主な財源として、「独立採算の原則」のもと効率的な事業運営に努めているところです。

このたび、平成23年度の決算が市議会で承認されましたので、その状況についてお知らせします。

収益的収支決算 (水道料金等の収入及び水道水をつくり、送り届けるための費用等)

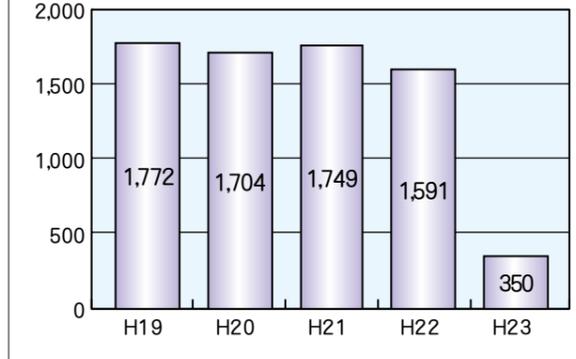
単位：百万円(消費税抜)

収入合計 8,515(△417)	支出合計 8,165(824)
その他 1,075(589) ↓ 水道料金 7,440 (△1,006)	減価償却費等 (非現金支出) 2,856(86) 委託料・修繕費等 3,110 (835) 借入金の支払利息 894(△41) 人件費 1,305(△56)
当年度純利益 350 (△1,241) 減価償却費等の費用は、外部に対する支払いを伴わないため、この分の現金は企業内に蓄えられ、建設改良事業費等の財源となります。	

※ グラフ中の()内の数値は、前年度決算額との差

純利益の比較表

(単位：百万円)



ちなみに...

純利益ってなあに？

純利益は、水道料金などの収益的収入から水道事業を運営するための人件費や委託料などの収益的支出を差し引いた額で、議会の議決を経て、借入金を返済するための積立金に積立てられるんだよ。だから、純利益が減ると思ったように借入金が返せなくなるんだ。このまま純利益が減り続けると水道局が目標としている平成28年度末の企業債残高300億円の達成も厳しくなるんじゃないかなあ～

資本的収支決算 (建設改良のために調達した資金等及び建設改良につかった費用等)

単位：百万円(消費税込)

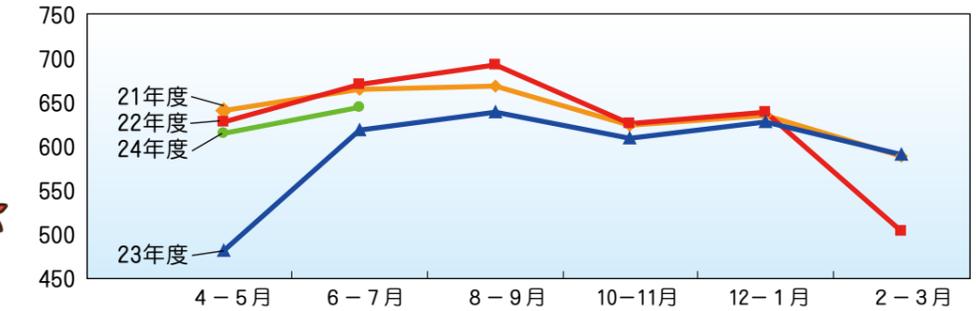
収入合計 679(△326)	支出合計 3,764(△1,227)
収入が支出に対して不足する額 3,085(△901) 国からの借入金など 679(△326)	借入金の返済 2,136(185) 建設改良費 1,628(△1,412)

※ グラフ中の()内の数値は、前年度決算額との差

震災後の使用水量の動向について

いわき市の水道水の使用量は、20年近く前からずっと減少傾向にあるんだ。特に昨年度は、東日本大震災の影響で大きく使用水量が落ちただけで、その後は、どんな風に水量が動いているのかな？使用水量の推移を表した、このグラフで見てみよう！

平成21年度以降の使用水量の推移



かっぱ：平成22年度2-3月(赤の線)と、平成23年度4-5月の水量(青の線)が大きく減っているね。これはやっぱり、震災のせいなの？

つる：そうなんだ。震災で長期間断水したり、市内の工場やお店などが被災し、業務が一時停止してしまったりしたためなんだよ。

かっぱ：震災後は大変だったもんね。でも、その後は、徐々に回復してきているね。

つる：うん、工場やお店などが再開してきたことや原発事故によっていわき市に避難して来る人がいっぱい増えたからなんだよ。

かっぱ：へえ～。だから増えているのか。お店にお客さんが増えたりすると、まちが活気づくよ！震災からちょうど1年後の平成23年度2-3月(青の線)には、震災前の年と同じくらいまで回復しているよ。このままどんどん増え続けるのかな？

つる：そうだといいんだけど、平成24年度の水量(緑の線)を見てみよう。他の年度と比べて、また少し下がっちゃっているんだ。

かっぱ：あらら…。じゃあ、震災後、順調に回復してきたように見えたけど、まだわからないね。これからは注目してみようかな！

つる：そうだね。使用水量は、まちの活気やみんなの元気と関連しているものね。

二滴ミラム

平成23年度の年間使用水量は3515万m³で、平成22年度と比べると363万m³(9.4%)減っています。

今回はしゃべりすぎたね。のどがからからだよ。

ほくおいしい水飲み場を知ってるから行こう！